

平成28年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営計画中期の

- 1 真に自分を大切にす教育の徹底により、正しい人権感覚を身につけるとともに、自己実現への意欲や態度を養う。
- 2 芸術科の充実及び国際理解教育の推進を図り、文化の創造と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

3 本年度重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切にす心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
				評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
				評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
確立を図	① 基本的生活週間の確立を図る生徒指導の充実	生徒指導課 各学年	① 遅刻者数を月平均90人以下にすることができたか。前年度は、月平均99人。	① 毎日の立哨指導や遅刻カードによる指導など様々な取組の効果もあり、遅刻者数の月平均が72人に減少した。	(評定) B (所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より遅刻者数が減少するなど、一定の成果は得られた。またスマホの指導についても、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができた。しかし、交通事故の目標を達成できなかったのも、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。	「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」などのさまざまな取り組みが、遅刻者数の減少に繋がっている。遅刻数の多い者には、「あいさつ運動」に参加させるなどの方法もある。	○基本的生活習慣は、人間の態度や行動の基礎となるものであり、生徒にとって社会的な自立や自己実現のため大変重要であるという認識のもと、さまざまな指導の徹底を図っていききたい。特に遅刻指導については、さらに改善されるように様々な指導を展開していききたい。交通事故防止については、今後も石井署と連携を図りながらマナーアップに努めていききたい。	
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にすることができたか。	② 携帯電話安全教室やノースマホデーなど様々な取組の効果もあり、スマホによる特別指導は0であった。				
			③ 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を3件以内にできたか。	③ 大きな事故はなかったが、登下校中の接触事故は4件あった。いずれも軽傷程度であった。				
		生徒指導課 各学年	活動計画	活動計画の実施状況				
			① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校も実施した。				
			② クリアファイルの配布やポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。				
	③ 登校時の立哨指導（毎日）、街頭指導（月1回）、石井署による交通安全講話（年1回）、交通安全街頭キャンペーン（年2回）、車体検査と通学別集会（年3回）、交通委員会による挨拶運動（月1回）を実施する。	③ 石井署と連携を図り、交通安全講演会の開催、交通安全街頭キャンペーン（無事カエル配布）などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。今年度は秋の交通安全運動の一環として、運動部員が石井町内主要幹線道路を走り、交通安全たすきをリレーすることにより、交通事故防止を訴える取組も実施した。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権教育課	評価指標 ① いじめ問題や人権に関する課題について教職員間で共通認識が持てたか。 ② 生徒による人権意識を高める活動を推進することができたか。 ③ 人権や人格を尊重し、いじめや差別を許さない生徒の意識や態度を育てることができているか。	評価指標の達成度 ① 校内教職員人権教育研修会や職員会議を通して教職員間で共通認識を持つことができた。 ② 「名高入権の日」校内放送や人権新聞の発行、生徒会人権委員会活動を通じて推進することができた。 ③ 大半の生徒がさまざまな人権問題に関心を示すとともに、前向きな学習意欲をもって取り組むことができた。	総合評価 (評定) B (所見) あらゆる機会を通じて教職員は研修につとめ、人権課題に関する共通理解を図り、生徒の理解が深まるように各学年やHR、人権委員会等の担当教員の創意工夫により指導の充実を図ることができた。その結果、全体として生徒の人権尊重の精神の涵養を図ることができた。	丁寧な個別面談などの取り組みを行うことで、生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、トラブル等の未然防止に努めたため「いじめ」による特別指導が0になったのだろう。これからもあらゆる機会に人権意識の高揚を図ることが大切である。 ○次年度も同様にあらゆる機会を通じて教職員は人権に関する研修につとめ、人権課題に対する共通理解を図り、その解消に向けて率先してつとめ、あらゆる差別やいじめを許さない姿勢で望みたい。生徒の自主活動の場のひとつとして人権社会研究会の活動をさらに次年度は充実させたい。	
		人権教育課	活動計画 ① 学年検討会や人権教育研修会を開催したり、校外の研修会に参加して職員会議等の機会にその報告を行ったりする。 ② 生徒会の人権委員会による人権に関する取り組みを行う。 ③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」において、人権課題に取り組む意欲を示す回答を70%以上にする。	活動計画の実施状況 ① 人権HR活動の1週間前には各学年で必ず検討会を持ち、校内教職員研修会は年2回実施した。校外研修の報告は職員会議で実施した。 ② 文化祭では人権展を実施し、「名高入権の日」には校内放送で朗読を行い人権啓発につとめた。 ③ 3年生の意識調査では、人権HR活動で人権課題解決に取り組む意欲や関心を示した生徒数が89%いる回答を得ることができた。			
		生徒指導課 教育相談	評価指標 ④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に努め、いじめによる特別指導を0にする。 ⑤ 必要に応じた職員研修やケース会議が実施できたか。	評価指標の達成度 ④ 年度当初の職員会議で共通理解を図り、いじめ防止に全教職員が取り組み、いじめによる特別指導は0であった。 ⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のための職員研修を行った。また、必要に応じて、教科担任会などのケース会を行った。			総合評価 (評定) A (所見) いじめ防止の取組を徹底し、大きないじめ問題はなかった。また教育相談では、ケースに応じた各種会議を実施し、生徒理解やその対応について共通理解に努め、適切な対応ができた。
	生徒指導課 教育相談	活動計画 ④ アンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。 ⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査を、年1回行い、その結果を教職員研修会で情報共有する。支援が必要な生徒については、年間2回以上ケース会を行う。	活動計画の実施状況 ④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、未然防止に努めた。 ⑤ 生徒実態調査を6月下旬に行い、7月に情報共有のための職員研修を行った。支援が必要な生徒についての保護者面談、教科担任会など2回以上行うことができた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 学校医による専門的な立場からの健康相談の活用を生徒に周知できるよう努めたい。	生徒の心の問題についての相談の割合が、少しずつではあるが増加している。養護教諭と担任、保護者とのさらなる連携を図り、特別なサポートが必要な場合は専門の相談機関と共同した支援も必要である。
			⑥ 保健室の機能を生かし、養護教諭、担任、サポートセンターと連携した相談支援活動を行うことができた	⑥ 担任と連携をしながら、相談支援活動に努めた。		
		⑦ 健康相談会を実施し、生徒の健康の保持増進に努めることができたか。	⑦ 学校医の専門的な立場からの指導をいただける貴重な場でもあるので、今後も継続していきたい。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		⑥ 生徒の心身の健康問題について担任、保護者、サポートセンターと連携を図る。必要な場合は専門の相談機関等につなげる。	⑥ 担任や関係職員と連携し、生徒の心身の健康問題の早期発見や対応に努めた。必要な場合は、学校医や専門機関と連携し支援を行った。			
		⑦ 学校医による健康相談会を実施し、生徒自身の健康課題について考えさせる。	⑦ 今年度は希望者がおらず、実施していない。今後も生徒への啓発に努めたい。			
	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 肥満二次検診の受診指導が今後の課題である。保健だよりや講演会を通して生徒の健康課題について積極的に啓発できた。		
		⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができたか。	⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診と二次検査対象者の全員受診を完了することができた。			
		⑨ 保健だよりを毎月発行できたか。健康や性に関する講演会を年1回以上実施することができたか。	⑨ 保健だよりをほぼ毎月発行し、健康問題について啓発できた。講演会も学校医の協力を得て年1回以上実施することができた。			
	保健厚生課	活動計画	活動計画の実施状況			
		⑧ 健康診断の結果、二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑧ 二次検診が必要な生徒への個別指導に努めた。			
	⑨ 保健だより、名高祭の保健展などの啓発活動を実施する。健康や性に関する講演会を実施し、生徒の意識の向上と理解を深める。	⑨ 第1学年を対象に性教育講演会を実施した。文化祭では歯科相談会を実施し生徒の健康への意識の向上と理解を深めることができた。				
特別活動課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 生徒会だけでなく、委員会活動や部活動にもひろがってきた。			
	⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施することができたか。	⑩ 生徒会役員が、火・水・金曜日の登校時に校門前で朝のあいさつ運動を実施した。生活委員会や野球部もあいさつ運動を実施した。				
特別活動課	活動計画	活動計画の実施状況				
⑩ 毎週2回以上実施する。	⑩ 毎週2回以上実施できた。					

○今後も健康に関する講演会や保健だよりを通して、健康課題についての啓発活動に努めていきたい。
肥満二次検診の受診指導の方法を関係の先生方と連携しながら考えていきたい。

○さらに多くの委員会活動や部活動と連携協力して実施する。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	総合学習科	<p>評価指標</p> <p>① 効果的にテキストを活用し、計画どおりに実施できたか。</p> <p>② 各学年で小論文講演会を実施できたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① ほぼ年度当初の計画に沿って実施することができた。総合学習コーディネーターと学年担当を中心に、学年間の連携をはかり、さらに計画を見直す必要がある。</p> <p>② 1・3年生で小論文講演会を企画し、実施することができた。段階を踏んだ指導につながった。2年生は、全体計画の見直しにより、今年度は実施しなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 講演会を通して、これからの学習活動や、ものの考え方、捉え方について考える機会となった。また、計画的に面談等を実施することによって、進路についての意識を高め、主体的な行動につなげることができた。</p>	<p>進路についての意識を高め、主体的な行動につなげるためには、生徒自身にしっかりとした職業観を持たせた上で、進路選択を行うことが大切である。特に就職希望者には、「何ができるのか」「何がしたいのか」を明確に表現できる力を身につけさせたい。多くの業種において高校生の人材に期待をしている。企業も変わってきている。これまでのイメージに縛られず、チャレンジしてほしい。</p>	
		総合学習科	<p>活動計画</p> <p>① 本校の総合的な学習の時間の計画に従って、将来への展望や確かな進路希望を持たせる。</p> <p>② 1, 2年生では小論文の書き方について、3年生では志望理由書について、講演会を開く。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ほぼ年度当初の計画に沿って実施することができた。学習を通して考えたことを書くことや、面談等を重ねることにより、自らの見つけ直しを促し、進路実現への意識づけを行った。</p> <p>② 1年生は、小論文についての入門・導入となる講演会、3年生は志望理由書について、書く際の核や注意点等具体的な説明により、受験に向けての導入となる講演会となった。</p>			
		進路指導課	<p>評価指標</p> <p>③ 生徒に進路情報を随時提供することができたか。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>③ 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が95%、進路指導に満足する生徒の割合は90%で、いずれも目標を達成した。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 情報の提供については配布時期や配布対象など計画通りに行えた。アンケート結果も目標が達成できた。</p>
		進路指導課	<p>活動計画</p> <p>③ 生徒に進路情報を随時提供する。(「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)</p> <p>④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>③ 「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。業者による校内での資料頒布会を行った。</p> <p>④ 進路指導室や就職指導室を活用して、できるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。</p>			
	3学年共通	<p>評価指標</p> <p>⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別指導ができたか。</p> <p>⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や望ましい職業観の確立を図ることができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑤ 担任は熱心に面談をしており、生徒一人ひとりに応じた生活面、進路面についての面談を行っていた。</p> <p>⑥ 2月に実施した進路希望調査において進路希望が未定である者は1年生2%、2年生0%と少なかったため、講演会や集会での一定の成果が現れていると考えられる。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 進路説明会等ではどの活動においても生徒が進路を自分のものとして考えていたので効果はあったと思う。</p>			
	3学年共通	<p>活動計画</p> <p>⑤ 全生徒と4回以上進路や学習、生活面についての面談をする。</p> <p>⑥ 講演会や学年集会を各学年3回以上開催する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑤ 4回以上という回数は達成できている。昼休みや放課後にいろいろな場所で面談している姿が見られた。</p> <p>⑥ 進路講演会は1, 2年生1回ずつ実施。全学年で職業別、学問分野別進路説明会を実施。3年生は進路集会を2回実施した。また、卒業生を招く進路座談会を開催した。</p>				
						○3年生の最終進路先に満足する生徒の割合、進路指導に満足する割合は目標を達成したものの昨年度と変化がなかったもので、生徒の進路希望が達成できるように個々に応じて対応していきたい。	
						○将来指向で様々なことに取り組む生徒を育成したいので、キャリア教育の視点を意識した講演会や集会の内容を今以上に考えていきたい。	

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
			評価指標と活動計画	評価				
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	教務課 進路指導課	① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が各学年ともに30%以上、かつゼロ時間の者が各学年ともにゼロであったか。	① 学習時間2時間以上の割合は、第1学期中間で1年生27%、2年生42%、3年生40%。第1学期末で1年生30%、2年生37%、3年生43%。第2学期中間で1年生34%、2年生36%、3年生35%。第2学期末で1年生41%、2年生48%、3年生45%だった。学習時間0時間の割合は、1学期中間で1年生2%、2年生2%、3年生1%。1学期末で1年生3%、2年生1%、3年生5%。2学期中間で1年生4%、2年生1%、3年生1%。2学期末で1年生2%、2年生0%、3年生1%であった。	(評定) B	生徒の学習意欲については、補習の参加率の低下等、課題も多い。教員の負担も多いが、これからは生徒の実態に合った取り組みを続けなければならない。問題は解決しない。将来の自分の姿をしっかりと想像させ、高校生活を有意義に過ごすための個別の目標を、3年間・1年間・学期毎・月毎と設定をすることで、明確に取り組めるのではないか。	○生徒への学習への動機付けの方策の検討 ○欠点取得者特別補講のあり方と日程の検討 ○STの成果を検証し、教材や問題の改善を図る。 ○高校での学習が将来何につながるのかを生徒に考えさせることにより学習意欲を喚起し主体的に授業やSTに取り組む生徒を増やす。	
			② 成績不振数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。	② 欠点取得者数について、1学期は前年度比較で減少した。2学期は前年度比較で増加した。本年度は、1学期よりも2学期が増加した。				
			③ 成績不振者に対して、休業中に欠点取得者特別補講を行う。合格率を90%以上にする。	③ 欠点者特別補講確認考査を受けた者の合格率は1学期-80%、2学期-56%であった。欠点補講対象者全体の合格率は1学期-69%、2学期-34%と低かった。				
		④ 授業時数確保に努め、出張・年休の授業振り替え率を95%以上にする。	④ 出張・年休による授業振り替え率は1・2学期で96%であり、極力自習の時間を減らすことができた。					
		⑤ 基礎基本の徹底を目標としたステップアップトレーニング(ST)の実施回数を可能な限り確保する。	⑤ 1年生で国語18回、英語17回、数学18回、2年生で国語18回、英語は18回、数学19回実施した。					
		⑥ 家庭学習時間を確保させるために、各教科でSTの実施曜日にあわせた家庭での課題を計画的に実施する。	⑥ STの実施にあわせてあらかじめ課題プリントを配布するなど、各教科において家庭学習時間確保への取り組みがなされた。					
				活動計画	活動計画の実施状況			
			教務課 進路指導課	① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布し、担任の先生方にチェックと状況把握をしていただいた。また、生徒に配布している手帳の活用を図り学習意欲の向上に取り組んだ。			(評定) B (所見) 教務課においては、例年と日程を変更して、欠点取得者特別補講を行った。また、考査前には学習計画表などを配付し、学習への動機付けを行った。しかし、特別補講に課題不備等で欠席する生徒もいた。2学期は進路指導課と連携し、補習を考慮して特別補講時間割を組んだ。今後とも、進路指導課と協力して学力の向上に努めたい。学習時間0時間の者はゼロにはなっておらず目標が達成できなかったが昨年度よりは減少しており、今後も継続的な取り組みを続けたい。また、STの実施が基礎学力の向上と学習時間の増加につながるのので地道に積み重ねていきたい。
			② 欠点を取らないよう、授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させ、授業態度や提出物等の指導をより徹底する。	② 全校集会などでは、進路指導主事や教務主任から学習方法や単位修得や未習得について等話す機会を持った。また、HR担任や教科担任に対し、提出物の期限を守らせることや、授業態度の指導などを徹底していただいた。				
			③ 長期休業中に補講や特別補講、復習課題を課し、学力補充に努めさせる。課題不備等のないように指導する。	③ 欠点取得者には、長期休業中に課題や特別補講、確認考査を実施し、その解消に努めた。しかし、特に2学期は欠席者が多かった。				
			教務課	④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業振り替えをする。	④ 振り替えによる自習は5%を切り、高い数字で授業を実施した。			
			進路指導課	⑤ 年間行事計画に位置づけ、英語、国語、数学のSTを毎週水木金の朝に実施する。	⑤ 行事計画書にテスト期間等を除き、可能な限り組み込み、計画通りにほとんどを実施することができた。			
			⑥ 1、2年生におけるSTの課題、全学年における各教科の授業の課題を計画的、継続的に実施する。	⑥ STの課題はSTの実施日にあわせて、授業補充の課題は週末を中心に課し、各教科における対応の中で提出物をこまめにチェックするなどして家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指した。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
			評価指標と活動計画	評価				
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	国語科	評価指標 ⑦ 毎週実施する漢字・語彙テストや古文単語テストの平均得点率7割以上の者を70%以上にする。 ⑧ 授業評価アンケートの「宿題をしていますか」の「している」の割合70%以上を目指す。 ⑨ ステップアップトレーニングで学習している「マナトレ国語基礎編」の確認テストの平均得点率7割以上の者を70%以上にする。	評価指標の達成度 ⑦ 平均得点率7割以上の者は、80%を超えていた。 ⑧ 週末課題の提出率は、80%を超えていた。 ⑨ 「マナトレ国語基礎編」の各級確認テスト平均得点率7割以上の者は、86%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 範囲を広くせず、スモールステップで学習させた。テストができた者は自信につながり、漢字検定に挑戦する者も増えてきている。週末課題の提出状況はいいのだが、提出することが目的になってしまい、きちんと学習することができていない生徒もみうけられる。ステップアップトレーニングは毎回真面目に取り組んでいた。	特になし		
		国語科	活動計画 ⑦ 全学年、漢字テキストを週末課題として学習させ週に1回確認テストを実施する。2,3年生は古文単語テストも実施し、合格しなかった者には繰り返し取り組ませる。 ⑧ 家庭学習の習慣をつけるために、授業の内容にあったプリントを配布し、予習・復習をさせる。プリントはファイルし、適宜提出させて評価する。 ⑨ ステップアップトレーニングで学習した内容は、直後の国語総合・現代文Bの授業でポイントの説明を行い、使える「ことば」を増やし、表現力や読解力へとつなげていく。確認テストは学期に2回程度実施する。	活動計画の実施状況 ⑦ 漢字テキストや古文単語、実力テストの範囲等を週末課題として学習させた。同じ生徒が再試験を受けることもあったが、合格するまで取り組ませた。 ⑧ 学習プリントを配布し、授業の中で確認したり、家庭での予習復習に活用したりした。適宜提出させて取り組み具合をチェックし評価した。 ⑨ 日常生活の中で使える「ことば」を増やし、実際に正しく使えるようになることを目指した。確認テストは各級の終わりに実施した。				
		地歴・公民科	評価指標 ⑩ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。 ⑪ 基礎的・基本的な用語を身につけさせるために、小單元ごとの小テストを実施する。小テストの正答率を6割以上にする。	評価指標の達成度 ⑩ 85%の生徒が満足していた。 ⑪ 3年生・2年生の日本史Bの小テストの正答率は70%を超えた。			総合評価 (評定) B (所見) その日の新聞記事を使い、タイムリーにわかりやすく説明することは興味・関心をもたせるきっかけづくりになっていた。 小テストを授業の中に取り入れることにより、少しずつ覚えるという習慣ができてきたように感じる。	○興味・関心から自らの問題として主体的に考えようとするように根気強くやっていく。 ○小テストの改善をはかり、さらに学習しやすいものにする。
		地歴・公民科	活動計画 ⑩ 毎時間一つは時事問題を取り入れ、授業内容と絡めて説明することにより、授業が世の中の出来事・動きと関連していることに気づかせ、興味・関心を持たせる。 ⑪ 小テスト前に、覚える時間をとったり、選択肢をつけたり、取り組みやすいように工夫する。定期テストと関連付け、学習意欲を高める。	活動計画の実施状況 ⑩ 毎時間時事的内容を取り入れることで世の中の動きに持たせるきっかけにはなっていると感じた。 ⑪ 小テスト前に一問一答形式で発問したり、少しずつ覚えるようにした。定期テスト前に小テストを使って学習する生徒も多かった。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) STへの取り組み方や意欲のばらつきが個人間で見られる。低得点の者が固定してしまっている現状がある。数学Iにおける協働学習は成果があったように思われる。	特になし
			⑫ 1, 2年生のSTにおける正答率を70%以上にする。	⑫ 科やクラス間で差があり、目標を達成できた回とそうでない回がある。平均正答率(得点率)は1年生65%, 2年生59%であった。		
		⑬ 授業評価アンケートで数学の授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。	⑬ 興味・関心を持った生徒の割合は1年生75%, 2年生69%で目標を下回ったが全体的に授業には真面目に取り組んでおり、授業への意識を高めることはできた			
		数学科	活動計画	活動計画の実施状況		
			⑫ STの課題を週末に配布し、家庭で学習してから金曜日の朝のテストを受ける流れを確立させる。	⑫ 金曜日実施ということもあり、月曜日に配布して平日の学習時間の確保に努めるようにした。		
		⑬ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり、協働学習を取り入れるなど、全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。	⑬ 1年生の数学Iにおいて全クラスで協働学習を取り入れた。生徒同士が教え合ったり聞き合ったりすることで意欲はあがったと思う。			
	理科	理科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 科学的なものの見方について慣れていない生徒への最新の科学内容の紹介は有効であったと考える。これを今学習している事へ結びづけることの難しさを感じた。学習内容がこれからの生活にどう結びつくかをさらに推し進め、自主的な学習活動へと推し進めたい。	
			⑭ ノート、プリント、課題、テスト直し等の提出・確認を細かく行い、その提出率を95%以上にする。	⑭ 授業中に課題やノートの点検をこまめに行うことで目標提出率にほぼ近い数値を達成することが出来た。		
			⑮ 社会で取り上げられる理科関連のニュースを授業で取り上げることで、学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ、学習意欲の向上に繋げる。	⑮ 最新科学の動向や、自然災害と防災の紹介については十分に達成できた。		
		理科	活動計画	活動計画の実施状況		
			⑭ 生徒がやる気を持って試験に臨み、満足できる得点がとれるためのサポートを、必要に応じて考査前に行う。また、欠点取得者をゼロにする。	⑭ テスト範囲の明示や出題ポイントの解説、テスト前の小テスト等でサポートをしたが、欠点所得者ゼロについては達成できなかった。		
			⑮ 一般用語、一般常識の理解定着を目指すためのきめ細かい指導と解説を行う。必要であれば小テストを行い定着率を確認する。 ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。解説と板書が重なり、わかりにくくならないよう工夫する。	⑭ 学習内容の理解度を上げるため、中学校内容の確認、必要に応じての復習等を行った。 板書計画と振り返り学習の連動については競技を行い実施できたと考える。		
⑮ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容についてプリント等を作成する。 記事中の単語、内容の解説を行い、基礎的な科学的知識の習得に努める。 月1回以上の取り組みを目指す。	⑮ 自然災害や最新の科学技術などについての紹介を行ったが、それらの解説について十分に理解させるための時間を確保する事が難しいと解った。					
⑯ 生徒が試験勉強に取り組むやすいよう、出題範囲と出題傾向を適切に伝え、効率良い勉強方法を伝授するとともに、学習努力が得点に繋がる出題を心掛ける。	⑯ 課題の確認や内容の定着を図るための小テストの実施などのこまめな実施により欠点所得者の減少には繋がったと考える。					

○中学校段階での得手不得手を継続している生徒も多く、内容の理解度についてもかなり段階差がある。学習の始めに中学校段階の内容についての手当てを行い、学習内容の理解度の上昇を行う。また、欠点所得者に対しては学年のと理組とも連動し、考査前等で学習する機会を確実に作り減少させる。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画		評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	英語科	評価指標	⑰ 1年生のSTの平均得点率6割以上の者を30%以上にする。	⑰ STの平均得点率6割以上の者は26%で、目標を達成できなかった。	総合評価 (評定) B (所見) 週末課題やSTは年度当初に内容を検討し、生徒の学習生活の定着や学習意欲の向上につながるよう計画した。しかし、回が進むにつれ内容が難しくなり、徐々に得点が低くなった生徒が多く見られた。異文化交流やALTとの交流、英検等資格取得の督励など、英語学習の動機付けを図ることが必要である。3年生は、進路決定が目前であったため、小テストにも意欲的に取り組み、成績を伸ばした。	特になし	○定期考査の勉強に熱心に取り組む生徒は多いが、日々こつこつと基礎・基本の定着を図ろうとする生徒はクラスや個人によって差がある。ほとんど勉強せずにSTの確認テストを受ける生徒もおり、その指導が今後の課題である。また、間違った箇所の復習をきちんとできるようなシステムを考える必要がある。
			⑱ 2年生のSTの平均得点率6割以上の者を30%以上にする。	⑱ STの平均得点率6割以上の者は21%で、目標を達成できなかった。				
			⑲ 3年生の1, 2学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。	⑲ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期41名、2学期27名で、1学期は目標を達成できた。				
		活動計画	⑰ 「English for Tomorrow」を授業で扱い、基本問題に取り組みさせる。一部を週末課題とし、自主学習を促す。STにより基礎・基本の定着をはかる。結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑰ 「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を授業で扱うことはほとんどできなかった。そのため週末課題として扱い、計画的に実施できた。STに対する取り組みは生徒の個人差があり、基礎・基本の定着がはかれた生徒は目標より少なかった。結果は評価の一部に加味した。				
		⑱ STの課題プリントを週末課題とし、自主学習を促す。授業でポイントを確認し復習させる。STにより基礎・基本の定着をはかる。STの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑱ STの授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。基礎・基本の定着がはかれた生徒は目標より少なかった。そのため、STの確認テストを一部定期考査の範囲に入れ、復習させることで定着を図った。結果は評価の一部に加味した。					
		⑲ 授業でポイントをよく理解させる。繰り返し暗唱・復習することを奨励する。小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑲ 3年生の授業では、重要なポイントの解説や小テストなど、基礎・基本の充実を図り、結果は評価の一部に加味した。ペアで繰り返し単語のチェックや音読を行うなど、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。					

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	図書課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 家庭読書時間調査の結果、30分以上家庭で読書をする生徒が昨年度より増加しており、10分以内しか読書しないという生徒が減少した。しかし、図書館を利用せず、個人で本を購入する生徒が多いようで、利用人数、貸出冊数とも昨年度より減少した。	特になし
			⑳ 全校読書会や読み聞かせの会への参加者が前年度より増加したか。	㉔ 全校読書会への参加は25名で昨年並みであった。読み聞かせの会は、お気に入りの本を紹介し合う会として実		
			㉑ 家庭での平均読書時間10分以上の者が30%以上になったか。	㉕ 「読書時間調査」によると、40%の生徒が家庭で10分以上読書していた。		
			㉒ 図書館の利用人数が昨年より増えたか。	㉖ 1日平均利用者数は、37.2人から31.0人に減少した。		
		図書課 国語科	㉓ 図書館の本の貸出が昨年より増えたか。	㉗ 1日平均貸出冊数は、10.4冊から8.4冊に減少した。		
			㉔ 読書感想文や各種コンクールの出品数や入賞者が前年度より増えたか。	㉘ 今年度は、任意応募の3年生からも出品があり、出品数は増加したが入賞者は前年度並みであった。		
		図書課	活動計画	活動計画の実施状況		
			㉔ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を周知して、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	㉔ 掲示物等で案内をするとともに、図書委員による広報活動を行った。参加者は、各自の感想や意見を発表し和やかな雰囲気の中で実施することができた。		
			㉕ 「朝の読書」の取り組みを十分に生かし、家庭での読書時間を増やしていく。学級文庫の活用や図書室の本をテーマ別に紹介して、読書へ誘う。	㉕ 図書館では、定期的にテーマを決めて図書展示を行うなど、生徒が興味関心を持つことが出来るように工夫をした。		
			㉖ 授業での図書館利用を増やしたり、作家やジャンル別の企画展を実施して来館者を増やしていく。	㉖ 授業や調べ学習の資料提供等により図書館利用の機会を増やし、本の貸し出し冊数の増加を図った。		
			㉗ 教科・科目と関連した本を案内したり、推薦本を紹介したりして興味・関心を持たせ貸出冊数の増加につなげていく。	㉗ 就職や進学に対応するために新書を購入し、ジャンル別にリストを作り案内した。テーマを決めて関連本を展示・紹介した。		
			㉘ 各種コンクールの案内を周知し、授業や部活動で作品を創作する時間を取るようにする。	㉘ 夏季休業前には各種コンクールの案内を教室掲示し、授業の中でも創作活動をした。		
図書課 国語科						

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
④基礎的・基本的な学力の育成	図書課各学年	図書課各学年	②⑤ 全教職員の理解を得られるように、「朝の読書」の主旨を知らせ、協力を得て教員の80%以上が朝の読書に参加できたか。	②⑤ 職員会議で、協力と指導の依頼を行った。係や日直に当たっている教員以外は朝の読書に参加して下さっていた。	(評定) B	特になし
			②⑥ 「名高ライブラリー」を毎月発行し、広報を活発にしたか。	②⑥ 「名高ライブラリー」を毎月発行し、新着図書や推薦本を紹介したり図書館行事を案内したりした。		
	②⑤ 「朝の読書」を充実させるため、原則として全員の教職員が指導に当たり、生徒も教職員も読書を楽しむ。また楽しめていない生徒への関わりを深めてもらう。	②⑤ 担任・副担任の協力を得て、3年生は毎日、1・2年生は月・火曜日に実施することができた。	(所見) 「朝の読書」は読書習慣の定着につながっているが、幅広いジャンルの読書にはまだ至っていないと思われる。 「名高ライブラリー」を見て本を借りに来たり、リクエストをしたりする生徒もみられた。			
	②⑥ 「名高ライブラリー」等の広報誌や図書館展示により、読書の意義や各分野の推薦図書を知らせ、幅広い本を紹介していく。	②⑥ 「名高ライブラリー」により、図書館情報を提供し、毎月の企画展示を案内したり、新着図書や関連図書を紹介することにより読書へと誘った。				

○先生方が生徒の傍らで静かに読書している姿は生徒により影響を与えていると思われるので引き続きお願いしたい。
○「名高ライブラリー」に先生や生徒の読書感想や推薦本のコーナーを掲載していく。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	評価指標 ① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的にとりくむことができたか。	評価指標の達成度 ① ボランティアへの参加についてはホームルームや各集会等において発信し、とりくみには自発的な行動がみられた。	総合評価 (評定) A (所見) 前年度よりも機会に恵まれたこともあり、参加者数も大幅に増えた。参加することで意識も高まった。	○これまでどおりに留まることなく、自らアンテナを張り自発的・積極的な参加を促したい。 ○作品の質・展示の工夫等を改善しながら、本校でしかできない表現を常に意識する。 ○アピールの方法や、部活動の魅力をそれぞれの部から自発的に発信し続けるようにしたい。	
		特別活動課	活動計画 ① 全校生徒の50%以上が自主的にボランティア活動を行う。	活動計画の実施状況 ① ボランティアとして、とくしまマラソンへの2度の参加(4月・3月)。清掃奉仕活動、名高パトロール、石井町ボランティアフェスティバル・人権集会・施設等への演奏会・作品展示など多岐にわたり参加し、延べ数は70%以上となった。			
	芸術科	評価指標 ② 校内展示を通して豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開することができたか。	評価指標の達成度 ② 校内随所において展示をすることで豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開することができた。	総合評価 (評定) B (所見) 作品の質・展示の工夫等、改善すべき部分もある。			
	芸術科	活動計画 ② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常設展示を行い、年3回展示替えを行う。	活動計画の実施状況 ② 美術・書道の常設展示を行い、年5回展示替えを行った。12月には正面玄関展示スペースが改装され大幅に拡大し、共同作品等、大型の作品も展示した。				
	特別活動課	評価指標 ③ 体育部の活動者数は増えたか。大会参加や活動の機会は増えたか。大会等での成績は向上したか。 ④ 文化部の活動者数は増えたか。大会参加や発表の機会は増えたか。大会等での成績は向上したか。	評価指標の達成度 ③ 体育部の入部率は35%から33%にわずかに減少したものの、複数の部が県大会の初戦を突破するなど成果が出ている。 ④ 写真部等大幅に人数増の部をはじめ入部者数は増加した。音楽・美術・書道を中心に各種大会・コンクールで成果を出した。	総合評価 (評定) A			
	特別活動課	活動計画 ③ 全国大会に5名以上、四国大会に10名以上の出場を目標とする。 ④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数10を目標とする。	活動計画の実施状況 ③ 全国大会に5名、四国大会に16名が出場し、目標を上回ることができた。 ④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣士・放送が全国へ。全国規模の入賞も書道を中心に入賞・入選数は34となった。	(所見) 体育部・文化部共に部内からの発信にも努め、継続した活動の上にさらなる成績の向上を目指したい。			

		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	国際課 英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) ドイツ姉妹校来校では、「グローバルスタンダード人材育成事業」の経費のおかげで、より多くの活動ができ、生徒の交流の機会が増えた。また、外務省の「高校講座」に応募し、外務省職員による講演を実施した。発展途上国の実態や国際協力について学んだことで、生徒の国際理解がさらに深まったことが感想文からうかがえた。	特になし	○次年度は、本校生徒がドイツを訪問する予定である。ドイツ研修旅行が円滑に、安全に行えるよう、事前準備をしっかりと行う必要がある。
			⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を6割以上にする。	⑤ 全校生徒対象のアンケートで、60.3%の生徒が国際交流への意識を高めたと答え、目標は達成された。			
			⑥ 生徒の国際理解を深める。	⑥ 留学生との交流、ALTによる授業や校内放送、外務省による国際理解講演会、ドイツや台湾からの訪問団受け入れなどを通し、国際理解に対する啓発を行った。			
		⑦ 海外からの訪問団受け入れ、講演会など、年3回以上、全校生徒を対象とした国際交流の機会を設定する。	⑦ 海外訪問団の歓迎セレモニーを3回と、国際理解講演会を実施した。全校生徒対象の国際交流の機会を年4回設定し、目標を達成できた。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		⑤ ALTの授業を全クラス最低2週間に1回は行う。	⑤ 学期ごとにティームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行うことで目標を達成できた。				
⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。	⑥ 外務省職員を招き国際理解講演会を実施した。外務省の仕事や国際協力について分かりやすく講演いただき、生徒の興味・関心や理解をさらに深めることができた。						
⑦ 留学生や海外からの訪問団受け入れ、講演会など、積極的に企画・実施する。	⑦ ドイツ姉妹校受け入れの際には、ホストファミリーの手配や授業体験など、本校職員や保護者との連携を密に行い、交流を成功させた。						

重点課題		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	<p>評価指標</p> <p>① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動ができたか。</p> <p>② 学校行事において、教職員と連携し生徒の諸活動をサポートできたか。</p> <p>③ 校内・校外においてPTA研修を年間3回以上実施できたか。</p> <p>④ 全会員にPTAの活動についての報告・広報を年間5回以上できたか。</p> <p>⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動が実施できたか。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報できたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① PTA役員、会員が参加して校外清掃奉仕活動ができた。</p> <p>② 行事の事前周知を徹底することで、多数のPTA役員・会員が名高祭に参加でき、円滑な運営をサポートできた。</p> <p>③ 校外、県内外の高P連・生指協など関連の各種研修に役員を中心として多数が参加し、さまざまな問題について理解を深めることができた。</p> <p>④ 諸行事についてはご案内を毎回全会員に配布し、その報告はHPで行った。また、年間を通しての活動報告は「PTA通信」の発刊・校誌「藤波」で行った。</p> <p>⑤ 全国大会への生徒の出場・出品に対する激励金など、ご支援を同窓会からいただいたり、校内外の生徒の諸活動を同窓会員にご案内することで、同窓会と学校が連携して相互の活動に理解・協力することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>PTA・同窓会ともに、会長・役員を中心に、学校や教職員、地域とも連携して、校内・校外の諸活動に積極的に取り組んでいただいた。それぞれ役員と一般会員が協力し、教職員・学校と一体となって、組織的な活動ができています。</p>	特になし	<p>○PTA・同窓会の活動が、地域社会に開かれ、共に連携していく土台となるよう、さまざまな行事や事業により細やかな取り組みを続けていきたい。役員会や総会はもちろんのこと、HPやPTA通信などを活用して、活動状況を積極的に発信していきたい。</p>
	総務課	<p>活動計画</p> <p>① 石井駅周辺から通学路、および校内の美化活動について、全保護者にご案内をして参加を呼びかける。</p> <p>② PTA役員を中心に文化祭では模擬店を出店し、体育祭では熱中症対策としてスポーツドリンクや麦茶の提供を行う。</p> <p>③ 県高P連、生指協連絡協議会等の総会・研修会等に参加し、研修する。また、大学訪問を年1回実施し、進路について理解を深める。</p> <p>④ 5月総会で事業の報告・事業計画を提案する。「PTA通信」を発行し、年間の活動を総括し、全会員に報告をする。HPに行事への参加案内や報告を年間3回以上掲載する。</p> <p>⑤ 9月に藤花同窓会総会・懇親会を開催する。役員および卒業30周年の会員を中心に参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年4回開催する。同窓会キャラクターの「くおんちゃん」クリアファイルを制作し、広く配布して同窓会のシンボルとして周知を図る。卒業式前日に同窓会入会式を実施し、各クラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 2学期末にPTA役員、会員が校外清掃奉仕活動に参加できた。</p> <p>② 文化祭では、多数の会員・役員が協力して焼きそばの調理・販売の模擬店を運営し、完売できた。体育祭では熱中症対策として、競技中の生徒や教職員に麦茶やスポーツドリンクを提供した。延べ30名を超える保護者が参加できた。</p> <p>③ 県高P連理事会・総会や各種研修会、生指協連絡協議会・総会等に役員を中心として参加した。高P連中四国大会香川大会には役員3名が参加した。7月の大学訪問では大阪教育大学を訪問し、進路について理解を深めた。</p> <p>④ 5月PTA総会、7月大学訪問、9月名高祭など諸行事についてのご案内は全会員に生徒を通して配布し、その報告はHPで行った。前年度の報告、今年度の事業計画については5月総会で提案した。また、年間を通しての活動については、卒業式に合わせて「PTA通信」第15号を発刊して報告した。</p> <p>⑤ 9月18日(日)に藤花同窓会総会を開催し、合わせて第37回卒業生同窓会と合同で懇親会を開催した。参加者は105名であった。それに先立ち役員会を2回実施して準備に当たり、次年度に生かせるよう事後にも反省会を実施した。本年度も同窓会キャラクター「くおんちゃん」クリアファイルを制作し、広く配布して同窓会・名西高校のシンボルとして周知を図ることができた。卒業式前日には同窓会入会式を開催し、卒業生に入会記念品の卒業証書ホルダーを贈呈するとともに、各クラスで選出された理事に委嘱状を同窓会役員から手渡し、同窓会会員となる自覚を卒業生に促した。</p>			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 目標はほぼ達成できた。次年度も積極的に広報活動を実践していきたい。	芸術科生徒の県外への募集についても継続し、体験入学や学校説明会の参加者数を増やす工夫もさらに必要と思われる。積極的な広報活動を中心に実践してほしい。校外での展覧会・音楽会等において多くの観客を動員をすることは難しいことだと考える。関係機関や大型施設など、人の集まる場所で効果的な発表の場を企画してほしい。
			⑥ 「入学案内」について、本校教育の内容を、わかりやすい特色にまとめ上げ、説明会等の資料にも活用することができたか。	⑥ 入学案内は、昨年度デザイン事務所に委託したものをベースに作成した。今年度も卒業生の声、在校生の声も取り入れ、好評であった。		
		⑦ 体験入学の参加生徒や保護者に、本校教育の内容やその説明が理解されたか。H27体験入学アンケート結果（良い以上-生徒90%、教員・保護者70%）を上昇させる。	⑦ 昨年同様に生徒によるオリエンテーションを実施した。H28体験入学アンケート結果（よい以上-生徒89%、教員・保護者-96%）であった。（普通以上-生徒99%、教員・保護者-98%）であった。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
	教務課	⑥ 「入学案内」の構成や情報内容を改良する。美術科の生徒にレイアウト等の案の作成を依頼する。	⑥ 美術の授業で構成などを検討してもらった。写真撮影等も美術科教員で行った。	⑦ 体験入学や、中学校での学校説明会等に、ポイントを使用して、本校の活動を視覚的に紹介した。説明会資料などを入れるクリアファイルも新調して配付し、広報活動に努めた。		
		⑦ 体験入学、学校説明会、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生に進路選択に活用してもらおう。体験入学の際にアンケートを実施する。				
	情報視聴覚課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 行事の掲載については保護者も閲覧しており、予定等を事前に掲載する事も必要だと感じた。		
		⑧ 学校での様々な取組みをホームページで紹介できたか。	⑧ 主立った行事に関しては紹介できている。学年単位の行事等も一部掲載することが出来た。			
	情報視聴覚課	活動計画	活動計画の実施状況			
		⑧ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に10回以上の更新を行う。	⑧ 芸術科や部活動等については頻繁に更新されている。ネット commons による情報発信が出来る教員も増えていることなど発信するための環境も整ってきている。			
	芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 中学生との関わりはまだ十分とはいえず、内容を精選しお互いに高め合う実習体験を企画できればと考える。		
		⑨ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動を行い、多くの観客を動員することができたか。	⑨ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動を行い、多くの観客を動員することができた。			
芸術科	⑩ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し芸術・文化の発信に寄与する事ができたか。	⑩ 町内のボランティア活動や、施設等へ出向いての活動を通し、本校の芸術・文化を発信することができた。				
	活動計画	活動計画の実施状況				
芸術科	⑨ 地域社会での文化祭、展覧会、文化行事などに積極的に参加する。年間5回以上行う。	⑨ 石井町ボランティアフェスティバル・人権集会・施設等への演奏会・作品展示といった活動を通し、本校の芸術・文化の発信を5回以上行うことができた。				
	⑩ 地域社会と連携し、校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を年間5回行う。中学生に向けた実習体験を年間6回行う。	⑩ 校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を年間5回以上行った。中学生に向けた実習体験を年間6回行った。				

○体験入学の広報活動について、取り組みを早める。

○アンケートを改善する。

○入学案内について、改良を重ねる。

○web発信できる教員をさらに増やし更新回数増加を目指す。

○リーディングハイスクールによる取り組みから、芸術科を中心にさまざまな機会に恵まれ活動の幅も広がりつつある。この機会を最大限に活かし、さらに新しい企画を創出するよう取り組まなければならない。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	評価指標	⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全や美化活動を年20回以上実施できたか。	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 交通安全キャンペーンの実施や運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	
			⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献することができたか。	⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に石井署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。また、今年度は運動部員が石井町内主要幹線道路を走り、交通安全たすきをリレーすることにより、交通事故防止を訴える取組も実施し、地域の交通安全に貢献できた。			
		生徒指導課 家庭科	活動計画	⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。	活動計画の実施状況		⑫ 石井署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。
			⑫ 石井署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	⑫ 石井署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパンフレットと一緒に配布した。また、交通安全たすきリレーも実施した。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	情報視聴覚課	評価指標 ① 各行事の結果等についてホームページで発信できたか。	評価指標の達成度 ① 行事担当者が行じまいに記事を書き、情報視聴覚課として写真を提供できる体制をつくる。	総合評価 (評定) B (所見) web発信出来る教員のさらなる育成が必要である。	リーディングハイスクールによる取り組みにより、活動の数や幅が大幅に増えることで先生方の負担も大きくなり大変だと思われる。しかし、この機会は大きなチャンスである。全県的にも注目されている今、学校の魅力を発信できる絶好の機会と捉え、さらに新しい取り組みとなるよう期待したい。	○誰でもが更新できるようPC環境と研修の機会を設ける。 ○リーディングハイスクールによる取り組みにより、芸術科を中心とし活動の幅が大幅に増えた。この機会をチャンスと捉え、さらに新しい企画を創出したい。
		情報視聴覚課	活動計画 ① 各取り組みをホームページを通して頻度多く発信する。	活動計画の実施状況 ① 各取り組みの掲載についてはおおむね達成できた。			
		芸術科	評価指標 ② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の活動を積極的に校外・地域へ発信することができたか。	評価指標の達成度 ② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の活動を積極的に校外・地域へ発信することができた。	総合評価 (評定) B (所見) 演奏会・作品展示についての反響も例年になく感じられたが、来場者数については満足はできていない。		
			評価指標 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページをはじめとするさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行うことができたか。	評価指標の達成度 ③ 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を行いアピールする。定期的な演奏会や作品展についても、その内容に改善・工夫をする。			
		芸術科	活動計画 ② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を行いアピールする。定期的な演奏会や作品展についても、その内容に改善・工夫をする。	評価指標の達成度 ② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や巡回展を行いアピールした。定期的な演奏会や作品展、地域の催し、施設等にも積極的に参加をした。			
			活動計画 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページをはじめとするさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行う。	評価指標の達成度 ③ 校外での演奏会や作品展（巡回展）等で生徒自らデザインしたポスター等を作成し案内・広報を行った。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
防災・安全 教育の徹底と 環境教育の推 進	⑧防災・安全 教育の徹底と 環境教育の推 進	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 各地で相次いで いる大地震もあ り、防災に対す る意識は人ごと でなく、各自の 命に関わる問題 として、その取 り組みにも真剣 さが感じられ る。いかに冷静 な行動ができる かは、訓練の積 み重ねによるも のなので、今後 も継続して取り 組んでいきたい。	避難訓練を地域 ぐるみでの取り 組みに発展させ てはどうだろう か。名西高校は 町役場・中学校 と隣接し、近隣 に小学校もあ る。大型災害を 想定した、役場 を核とした総合 避難訓練を提案 したい。	○避難訓練の実 施時期について は、各年度のな るべく早期が望 ましいと考える。 ○防災クラブの 活動について、 次のステップを 考える必要があ る。
			① 避難訓練を年2回実施したか。	① 9月(地震)、12月(火災)の避 難訓練を実施した。			
			② 外部機関と連携した防災教育を実施 したか。	② 地元消防署の方々をお招きし、地震 防災に関する講演をしてもらった。			
			③ 防災クラブの活動が十分に行えた か。	③ 地震に備えて、主に避難経路に当 たる通路のガラス飛散防止フィルムの 貼付作業、防災展示を行った。			
			活動計画	活動計画の実施状況			
			① 緊急時に適切な行動がとれるように するため、地震・火災を想定した避 難訓練を実施する。	① 地震・火災 共に全校一丸となっ て、素早い行動ができたと思う。行 事の関係で地震の避難訓練が9月 になることが少し気がかりである。			
	② 安全確保に対する意識を高めるた め、防災教育を充実させる。	② 緊急地震速報の訓練も含めて、安全 確保に対する意識は高まってきてい ると感じる。					
	③ 防災クラブの活動として、1・2学 期末に防災活動を積極的に行う。	③ 1学期末から夏休みは防災展示の準 備、また2学期末には、ガラスの飛 散防止フィルム貼付作業を積極的 に行った。					
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 学校全体に環境 美化に対する意 識は高いと感じ る。ゴミの分 別、清掃、奉仕 活動など全般に 先生方の積極 な取り組みがあ り、それがその まま生徒にも良 い影響を与えて いると思われる。	○環境美化に対 する意識はこの ままを維持しつ つ、さらに電気 や水道の節約に 付いての意識の 高揚を図ってい きたい。			
	④ ゴミの分別をすることがECOにつな がることを自覚させることができた か。	④ ゴミの分別の状況は概ね良好である と思う。しかしそれがどのように ECOに繋がっているのかという意識 には至っていないと感じる。					
	⑤ 環境を整え学習効果をあげるととも に、美化を推進することができた か。	⑤ 清掃は職員・生徒一丸となって丁寧 に行われており、学習環境として良 い環境と思う。					
	⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て 、奉仕の精神を養うことができた か。	⑥ 年に2回の校外清掃奉仕活動を実施 できた。通学路や生徒が多数利用し ている最寄り駅の清掃を丁寧に行 うことができた。					
活動計画	活動計画の実施状況						
④ ゴミ分別チェック表を毎月提出す る。	④ この項目は実施できなかったが、分 別状況は良いと思われる。						
⑤ 月に1回大掃除を実施する。	⑤ 定期的に実施することができた。全 校挙げて大変協力的である。						
⑥ 1、2学期末に校外奉仕活動を積極 的に行う。	⑥ 生徒・職員共に積極的に行うことが できた。						